



離れにある蔵。京都より取り寄せた漆喰で外壁を再生。屋根には太陽光発電が備わっている

古くゆえの魅力と美しさを大切に
素材や性能にもこだわった
庭も屋敷も広い。しかも30年程住む人がいなかったため、最初は家や蔵に何かあるかを調べることから始めた。まずは敷地内にある蔵の中を仕分け。ご主人も知らなかった古道具や家具、さらに古文書まで出てきたというから驚きだ。古文書には100年ほど前に行った屋敷の改築のことが記されており、それによって最低でも築200年が考えられるとのこと。

最初に取っ手かかったのは蔵の改築。階段や梁はそのまま残し、脆くなった床や外壁を丁寧に整えた。特に外壁の漆喰は京都から材料を取り寄せるなど、素材選びにも配慮。2階の床の一部を吹き抜けにして開放感を演出することで、納戸としてだけでなく離れ部屋としても快適に過ごせる工夫が。併せて馬屋や水屋も使い勝手よく手を加えた。さらに、蔵の屋根には太陽光発電パネル、馬屋を利用した車庫の屋根には太陽熱温水パネルを設置して、これから住み継ぐ住宅としてゼロエネルギーを目指すシステムも装備している。



玄関は土間部分を広げ、ホール天井を吹き抜けに。採光窓からの自然光も取り入れている



床間のある座敷。天井や障子の建具、縁側などは残されていたままの姿で未来へ引き継がれる



角部屋となる板間。現在はフリースペースだが、子どもが個室を欲しがったときなど、生活スタイルに応じて使い方も変えていくそう



約30年前のキッチンを再利用。ステンレスのシンクや作業台を生かし、パネルなどを無垢材で造作



庭を彩る植栽の数々。緑のグラデーションに楠の武家門や武家屋敷、白い蔵が映える

歴史的建造物にパッシブデザインをプラス 後世に住み継ぐゼロエネ住宅として再生

建築工房 自然木(じねんもく)

●木造軸組在来工法 ●始良市 ●K邸 ●夫婦+子ども3人

薩摩独特の住宅様式を
現代の生活とマッチさせる
歴史の彩りが濃く残る街並みに、真新しいクスノキの武家門が目を引きK邸。実は今回、200年余の武家屋敷が家づくりの舞台となった。施主のKさんは、代々屋敷を受け継ぐ立場の人。実際に住んだことはないものの、幼い頃から時々手入りに訪れており、「いつかは私が住むんだ、という使命感みたいなものはありましたね」。

大学で地元を離れてからも心にあったのはこの屋敷。古民家などの建築や歴史にも自然に興味があった。結婚後、子どもたちを育てる環境も考え、地元へ戻ることを決めたご主人。「新居は他に考えられなかった」と、武家屋敷の持ち味を生かしながら、後世へ伝えるためのリフォームを決心。夢を叶えてくれるところを探した結果、ご夫婦の考えと近かった自然木に出会う。事前調査やプランづくりなど、完成までに要した時間は約3年。長い年月を重ねてきた住宅は、さらなるこだわりを詰め込んで生まれ変わった。



■DATA..... 土地面積/000.00㎡(00.00坪)
延床面積/000.00㎡(00.00坪)
1階面積/00.00㎡(00.00坪)
2階面積/00.00㎡(00.00坪)
用途地域/第一種住居地域

■SCHEDULE 設計期間/約24か月
建築期間/約12か月

こんな家が欲しかった 私たちが希望した3つのこと

- 1 独特の建築様式はなるべく残す
母屋の外観や室内、蔵など、武家屋敷の造りを残すことにこだわりました。ただし住空間は、これから住み継ぐ住宅として断熱性能・省エネ性能を確保しました。
- 2 玄関スペースは広く
もともと狭い造りの玄関が特徴的。鹿児島ならではのスタイルでしたが、来客時なども考慮して、土間やホールを広がっています。
- 3 生活空間はスムーズな動線配慮を
茶の間を中心に、台所や水回りを集約。短い動線で動けるので生活しやすくなっています。使い勝手もいっすよ。



木の質感が心地いい浴室。高さを抑えた窓からは庭が望める

Family Voice



ここに住みながら改装を行ったので、母屋や蔵での生活も体験。備え付けの五右衛門風呂にも入りました(笑)。少しずつ生まれ変わる家をワクワクした気持ちで眺めなら過ごせたのは大きな喜びです。私たちらしい暮らし方とともに、子どもたちへつないでいきたいですね。

施工会社メッセージ

私たちにとっても初めての古民家再生。施主様の「古い住宅の魅力を残したい」という思いを盛り込みつつ、長く安心して住める家にするため、生活スペースの構造や性能は長期優良住宅の水準にしたり、パッシブデザインを取り入れたり。これまで以上に学ぶことの多い家づくりになりました。



建築工房 自然木
(じねんもく)
取締役
村田 義弘さん

建築工房 自然木(じねんもく)



▲ 本実例をもっと知りたい方
■ 施工会社へのお問い合わせ先
TEL099-812-5701

<http://homepage2.nifty.com/jinenmoku/>
E-mail jinenmoku@nifty.com

※「かごしま家づくりの本を見た!」とお問い合わせください。



台所や板間、畳間も一続きになった茶の間。省エネを意識してトップライトで採光を確保。以前あった天井板は、板の間で再生させた



新しい無垢木と経年で飴色になった古い桁や梁とのコントラストが美しい



茶の間には薪ストーブを採用。構造や断熱にも手を加えた空間なので暖房も効率的

**エコで快適な暮らしを
無理せず実現できる仕掛け**

母屋はご夫婦共になるべく、そのままを生かすスタイルを希望。しかし台所や水回りなど、生活するには不便な点も多い。そこで、水回りは思い切った間取りの変更を行い、構造的な見直しも図って断熱や耐震の不安を解消。動線にも配慮し、暖かく快適な生活スペースを確保している。

古民家再生ではあるものの、家づくりの基本姿勢はこれまでの自然木と同様。古い梁を現した茶の間には、作り付けの作業机や収納棚を設け、スッキリとした空間に。キッチン背面に水回りを集約してあるので、家事動線もコンパクト。天窗や開口の工夫で、自然の光や風を上手く暮らしに取り入れている。一方、床間のある座敷は武家屋敷の伝統的なつくりや意匠をほぼ残した形。縁側のガラス窓、欄間、床の間など、現代の住宅では決して得られない深い味わいを醸し出す。「古いものを大切に、そこに価値を見出した」というご夫婦と、「家族が無理せず快適な生活を営める空間を提供したい」という自然木の考えが融合した家となっている。